



平成23年4月21日

各 位

会社名 東海染工株式会社  
代表者名 取締役社長 八代 芳明  
コード番号 3577 東証・名証第1部  
問合せ先 取締役管理部長 津坂 明男  
(TEL 052-581-8141)

## 業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成22年11月11日に公表しました平成23年3月期通期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）の業績予想（連結・個別）を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。また、併せて特別損失の計上についてお知らせいたします。

### 記

#### 1. 業績予想の修正について

##### (1) 平成23年3月期通期 連結業績予想数値の修正（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	14,650	110	10	710	20.48
今回修正予想(B)	14,800	200	100	600	17.31
増減額(B-A)	150	90	90	△110	—
増減率	1.0%	81.8%	900.0%	△15.5%	—
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	15,288	△361	△438	△864	△24.91

##### (2) 平成23年3月期通期 個別業績予想数値の修正（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,750	△130	△150	710	20.48
今回修正予想(B)	11,000	△110	△110	400	11.54
増減額(B-A)	250	20	40	△310	—
増減率	2.3%	—%	—%	△43.7%	—
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	10,785	△661	△734	△1,011	△29.17

### (3) 修正の理由

(連結業績) 景気の先行きが極めて不透明な状況におきまして、個人消費の低迷により、店頭における衣料品販売不振は続いており、当社グループを取巻く経営環境は引き続き厳しい状況にて推移しております。

このような状況のもと、主力の国内染色加工事業では、今上期に完了した織物加工事業統合による収益改善効果や5月に発足した磐田事業所の新設効果に加えて、加工内容的には新開発加工商品やユニフォーム関連商品の受注増加により、想定を上回る好業績にて推移しました。海外繊維事業におきましても、インドネシア子会社及びタイ子会社が、拡大に向けて注力している日本向け販売・受注や、内地向けの受注が好調に推移しており、また国内子会社におきましても、倉庫事業が合理化効果により業績改善が進んだほか、保育サービス事業も順調に業績を拡大いたしました。

以上の結果、連結決算の営業利益、経常利益は、予想を大幅に上回り、3期ぶりに黒字化を達成する見込みです。また当期純利益におきましても、3期ぶりに黒字転換する見込みですが、後記の通り、米国子会社における固定資産の減損損失71百万円、株式市場低迷に伴う投資有価証券評価損39百万円、適格年金制度閉鎖に伴う退職給付制度終了損13百万円を特別損失として計上する見込みとなったことに加え、個別決算で繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、繰延税金資産の一部取り崩しにより法人税等調整額が増加する見込みのため、予想を修正いたします。

(個別業績) 個別業績におきましては、当期純利益を、後記の通り、米国子会社の関係会社投資損失230百万円、株式市場低迷に伴う投資有価証券評価損39百万円、適格年金制度閉鎖に伴う退職給付制度終了損13百万円を特別損失として計上する見込みとなったことに加え、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、繰延税金資産の一部取り崩しにより法人税等調整額が増加する見込みのため、修正いたします。

## 2. 特別損失の発生及びその内容

### (1) 減損損失の計上

当社の連結子会社である米国ジョージア州のTEXPRINT(GA.),INC.の所有する不動産について、現状の不動産市況を勘案し、将来の回収可能性を検討した結果、平成23年3月期通期決算(連結)におきまして、減損損失71百万円を特別損失として計上いたします。

### (2) 関係会社投資損失の計上

上記(1)の減損損失の計上により、TEXPRINT(GA.),INC.の期末純資産簿価が当社の帳簿価格を著しく下回るため、平成23年3月期通期決算(個別)におきまして、関係会社投資損失230百万円を特別損失として計上いたします。なお、当該、特別損失は連結決算では相殺消去されるため、連結決算には影響いたしません。

### (3) 投資有価証券評価損の計上

「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、期末における株式市場の低迷により、時価が著しく下落し、その回復があると認められないものについて、減損処理を実施し、平成23年3月期通期決算(連結・個別)におきまして、投資有価証券評価損39百万円を特別損失として計上いたします。

### (4) 退職給付制度終了損の計上

当社の退職金制度の一部であった適格年金制度の閉鎖に伴い、平成23年3月期通期決算(連結・個別)におきまして、退職給付制度終了損13百万円を特別損失として計上いたします。

(ご注意) 上記に記載した予想数値は、現時点での入手可能な状況に基づき判断した見通しであり、今後、様々な変動要因により、実際の業績が上記数値と異なる可能性があります。

以 上